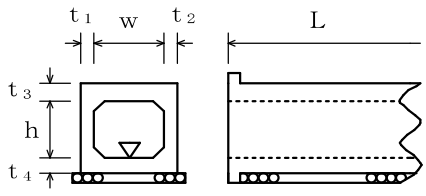
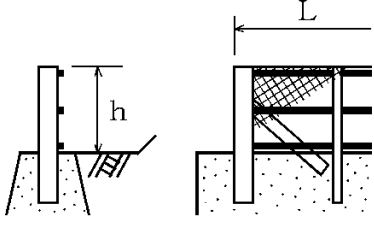


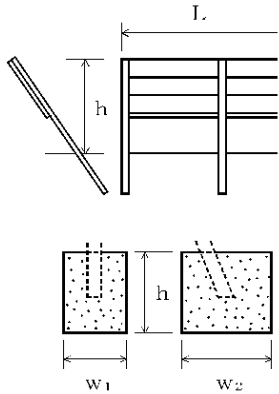
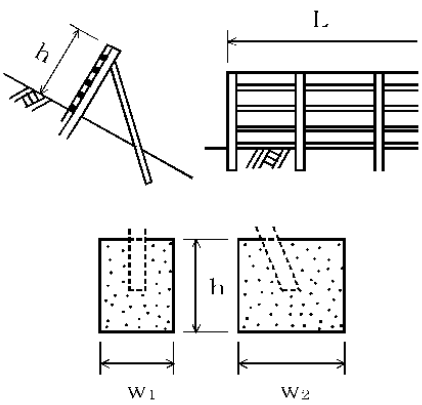
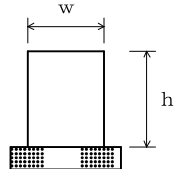
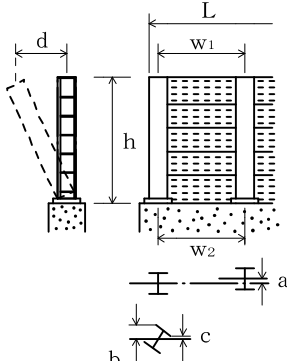
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
8 道 路 編	1 道 路 改 良	3 工 場 製 作 工	2		遮音壁支柱製作工	部 材	部材長 l (m)	$\pm 3 \cdots l \leq 10$ $\pm 4 \cdots l > 10$
8 道 路 編	1 道 路 改 良	9 カ ル バ ー ト 工	6		場所打函渠工	基 準 高 ∇		± 30
						厚 さ $t_1 \sim t_4$		-20
						幅 (内法) w		-30
						高 さ h		± 30
						延 長 L	$L < 20\text{m}$	-50
							$L \geq 20\text{m}$	-100
8 道 路 編	1 道 路 改 良	11 落 石 雪 害 防 止 工	4		落石防止網工	幅 w		-200
						延 長 L		-200
8 道 路 編	1 道 路 改 良	11 落 石 雪 害 防 止 工	5		落石防護柵工	高 さ h		± 30
						延 長 L		-200

測定基準	測定箇所	摘要
図面の寸法表示箇所で測定。		8-1-3-2
両端、施工継手及び図面の寸法表示箇所で測定。		8-1-9-6
1 施工箇所毎		8-1-11-4
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1ヶ所、施工延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。		8-1-11-5
1 施工箇所毎		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
8 道 路 編	1 道 路 改 良	11 落 石 雪 害 防 止 工	6		防雪柵工	高 さ h	±30	
						延 長 L	-200	
						基 礎	幅 w ₁ , w ₂	-30
							高 さ h	-30
8 道 路 編	1 道 路 改 良	11 落 石 雪 害 防 止 工	7		雪崩予防柵工	高 さ h	±30	
						延 長 L	-200	
						基 礎	幅 w ₁ , w ₂	-30
							高 さ h	-30
						ア ン カ ー 長 ℓ	打 込 み ℓ	-10%
							埋 込 み ℓ	-5%
8 道 路 編	1 道 路 改 良	12 遮 音 壁 工	4		遮音壁基礎工	幅 w	-30	
						高 さ h	-30	
						延 長 L	-200	
8 道 路 編	1 道 路 改 良	12 遮 音 壁 工	5		遮音壁本体工	支 柱	間隔 w ₁ , w ₂	±15
							ず れ a	10
							ねじれ b-c	5
							倒 れ d	h×0.5%
						高 さ h	+30, -20	
						延 長 L	-200	

測定基準	測定箇所	摘要
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、施工延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。		8-1-11-6
1 施工箇所毎		
基礎 1 基毎		
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、施工延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。		8-1-11-7
1 施工箇所毎		
基礎 1 基毎		
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、施工延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。		8-1-12-4
1 施工箇所毎		
施工延長 5 スパンにつき 1ヶ所		8-1-12-5
1 施工箇所毎		

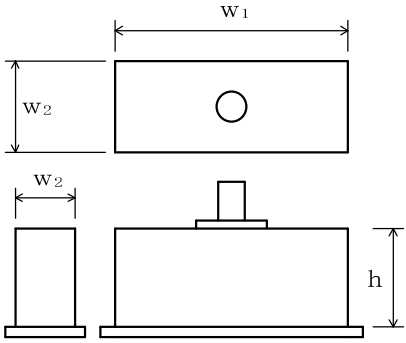
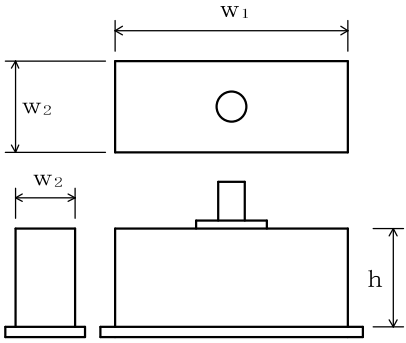
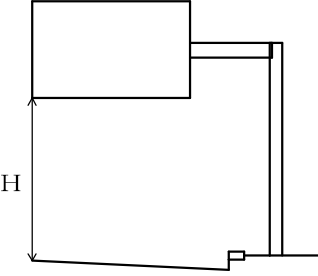
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)		10個の測定値 の平均 (X_{10})
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上
8 道 路 編	2 舗 装	4 舗 装 工			歩道路盤工 取合舗装路盤工 路肩舗装路盤工	基準高▽	±50		—
						厚 さ	t < 15cm	-30	-10
							t ≥ 15cm	-45	-15
						幅	-100		—
8 道 路 編	2 舗 装	4 舗 装 工			歩道舗装工 取合舗装工 路肩舗装工 表層工	厚 さ	- 9	- 3	
						幅	-25	—	

測定基準	測定箇所	摘要
<p>基準高は片側延長 40m 毎に 1ヶ所の割で測定。 厚さは、片側延長 100m 毎に 1ヶ所掘り起こして測定。 幅は、片側延長 40m 毎に 1ヶ所測定。</p> <p>※両端部 2 点で測定する。</p> <p>「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。</p>	<p>工事規模の考え方</p> <p>中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 1,000m² 以上あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が 100 t 以上の場合が該当する。</p> <p>小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。</p>	8-2-4
<p>幅は、片側延長 40m 毎に 1ヶ所の割で測定。厚さは、片側延長 100m 毎に 1ヶ所コアを採取して測定。</p> <p>「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。</p>	<p>厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X10) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p> <p>コア採取について</p> <p>橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p>	8-2-4

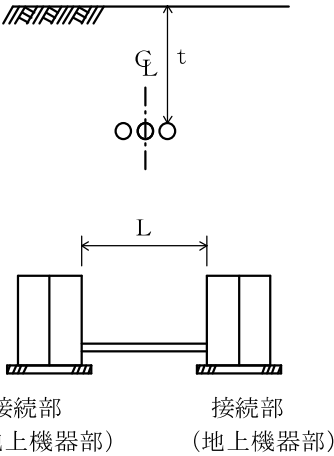
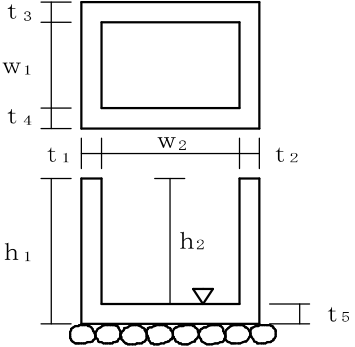
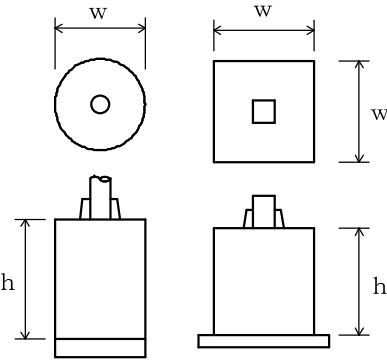
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値		
8 道 路 編	2 舗 装	5 排 水 構 造 物 工	9		排水性舗装用路肩排水工	基 準 高 ∇	± 30		
						延 長 L	-200		
8 道 路 編	2 舗 装	7 踏 掛 版 工	4		踏掛版工 (コンクリート工)	基 準 高	± 20		
						各 部 の 厚 さ	± 20		
						各 部 の 長 さ	± 30		
							(ラバーシュー)	各 部 の 長 さ	± 20
								厚 さ	—
								(アンカーボルト)	中 心 の ず れ
			ア ン カ ー 長	± 20					
8 道 路 編	2 舗 装	9 標 識 工	4	1	大型標識工 (標識基礎工)	幅 w_1, w_2	-30		
						高 さ h	-30		
8 道 路 編	2 舗 装	9 標 識 工	4	2	大型標識工 (標識柱工)	設置高さ H	設計値以上		

測定基準	測定箇所	摘要
<p>施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1ヶ所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。 なお、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」の規定による測点の管理方法を用いることができる。</p>		8-2-5-9
<p>1ヶ所／1 施工箇所 なお、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」の規定による測点の管理方法を用いることができる。</p>		
1ヶ所／1 踏掛版		8-2-7-4
1ヶ所／1 踏掛版		
1ヶ所／1 踏掛版		
全数		
全数		
全数		
基礎一基毎		8-2-9-4
1ヶ所／1 基		8-2-9-4

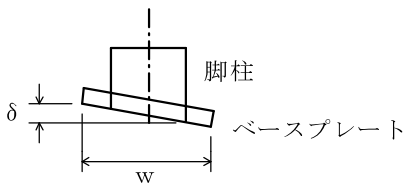
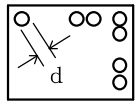
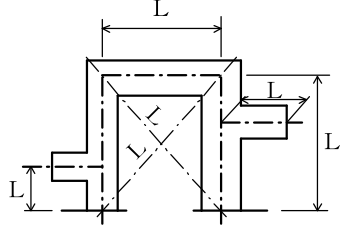
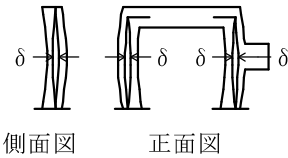
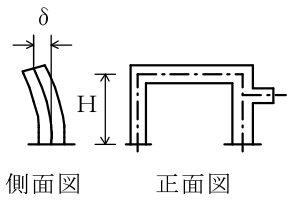
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
8 道 路 編	2 舗 装	12 道 路 付 属 施 設 工	5	1	ケーブル配管工	埋 設 深 t	0~+50
						延 長 L	-200
8 道 路 編	2 舗 装	12 道 路 付 属 施 設 工	5	2	ケーブル配管工 (ハンドホール)	基 準 高 ∇	± 30
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20
						※幅 w_1, w_2	-30
						※高さ h_1, h_2	-30
8 道 路 編	2 舗 装	12 道 路 付 属 施 設 工	6		照明工 (照明柱基礎工)	幅 w	-30
						高 さ h	-30

測定基準	測定箇所	摘要
接続部間毎に1ヶ所 接続部間毎で全数	 <p>接続部 (地上機器部)</p> <p>接続部 (地上機器部)</p>	8-2-12-5
1ヶ所毎 ※印は、現場打ちのある場合		8-2-12-5
1ヶ所／1施工箇所		8-2-12-6

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	
8 道 路 編	3 橋 梁 下 部	3 工 場 製 作 工	3		鋼製橋脚製作工	部 材	脚柱とベースプレート の鉛直度 δ (mm)	w/500	
							ベ ー ス プ レ ー ト	孔の位置	±2
								孔の径 d	0～5
						仮 組 立 時	柱の中心間隔、 対角長 L (m)	±5… L ≤ 10m ±10… 10 < L ≤ 20m ±(10 + (L - 20)/10) …20m < L	
							はりのキャンバー 及び柱の曲がり δ (mm)	L/1,000	
							柱 の 鉛 直 度 δ (mm)	10…H ≤ 10 H…H > 10	

測定基準	測定箇所	摘要
各脚柱、ベースプレートを測定。		8-3-3-3
全数を測定。		8-3-3-3
全数を測定。		
両端部及び片持ばり部を測定。		8-3-3-3
各主構の各格点を測定。		8-3-3-3
各柱及び片持ばり部を測定。 H : 高さ (m)		8-3-3-3

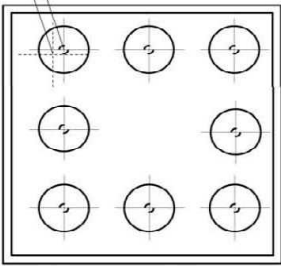
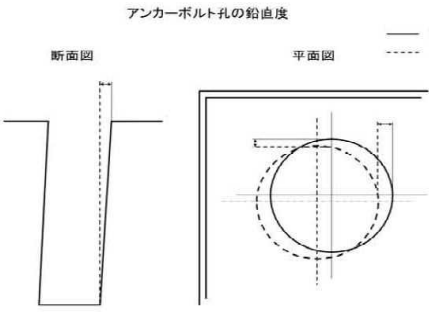
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
8 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 橋 台 工	8		橋台躯体工	基 準 高 ∇	± 20
						厚 さ t	-20
						天 端 幅 w_1 (橋軸方向)	-10
						天 端 幅 w_2 (橋軸方向)	-10
						敷 幅 w_3 (橋軸方向)	-50
						高 さ h_1	-50
						胸壁の高さ h_2	-30
						天 端 長 l_1	-50
						敷 長 l_2	-50
						胸壁間距離 l	± 30
						支 間 長 及 び 中心線の変位	± 50

測定基準	測定箇所	摘要
<p>橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。</p> <p>箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。</p> <p>なお、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる。（アンカーボルト孔の鉛直度を除く）</p> <p>ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」に基づき出来形管理を実施する場合は、同要領に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施することができる。</p>	<p>8-3-6-8</p> <p>胸壁間距離 支間長</p> <p>中心線の変位 (a 1 : 橋軸直角方向) (a 2 : 橋軸方向)</p>	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
						支 承 部 ア ン カ ー ボ ル ト の 箱 抜 き 規 格 値	計画高	+10~-20
							平面位置	±20
							アンカーボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下

測定基準	測定箇所	摘要
<p>支承部アンカーボルトの箱抜き規格値の平面位置は沓座の中心ではなく、アンカーボルトの箱抜きの中心で測定。</p> <p>アンカーボルト孔の鉛直度は箱抜きを橋軸方向、橋軸直角方向で十字に切った2隅で計測。</p>	<p>平面位置</p> <p>平面図</p> <p>— : 実際 - - - : 設計</p>  <p>アンカーボルト孔の鉛直度</p> <p>断面図</p> <p>平面図</p> <p>— : 実際 - - - : 設計</p> 	

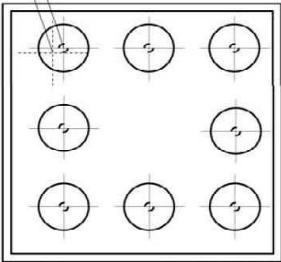
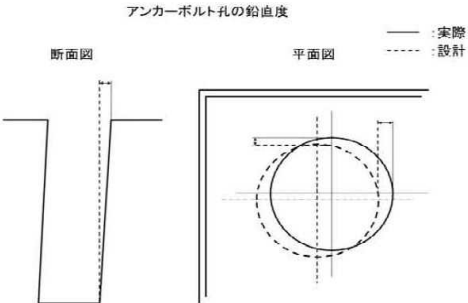
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
8 道 路 編	3 橋 梁 下 部	7 R C 橋 脚 工	9	1	橋脚躯体工 (張出式) (重力式) (半重力式)	基 準 高 ∇	± 20
						厚 さ t	-20
						天 端 幅 w_1 (橋軸方向)	-20
						敷 幅 w_2 (橋軸方向)	-50
						高 さ h	-50
						天 端 長 l_1	-50
						敷 長 l_2	-50
						橋脚中心間距離 l	± 30
						支 間 長 及 び 中心線の変位	± 50

測定基準	測定箇所	摘要
<p>橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。 なお、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる。（アンカーボルト孔の鉛直度を除く） ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」に基づき出来形管理を実施する場合は、同要領に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施することができる。</p>	<p>8-3-7-9</p> <p>橋脚中心間距離 ϕ 支間長</p> <p>中心線の変位 (a 1 : 橋軸直角方向) (a 2 : 橋軸方向)</p>	

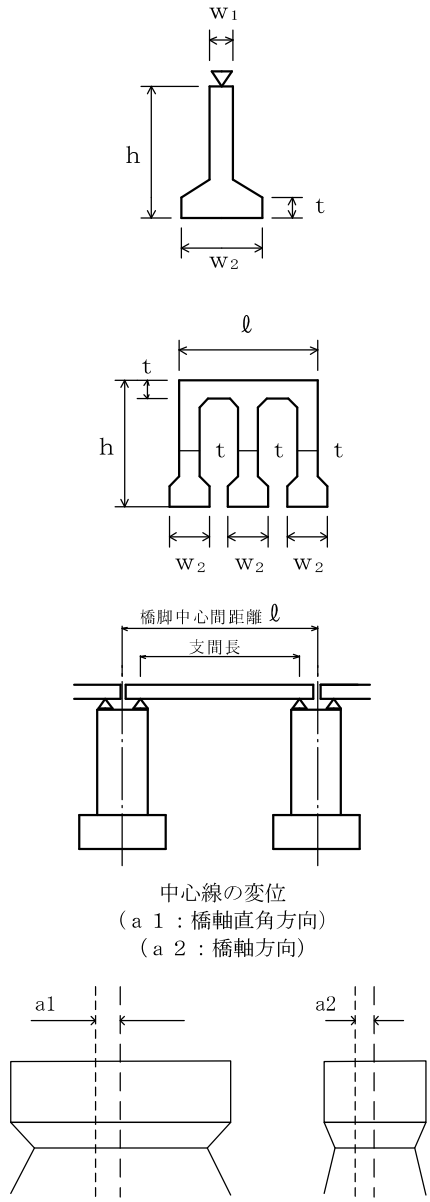
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
						支 承 部 ア ン カ ー ボ ル ト の 箱 抜 き 規 格 値	計画高	+10～-20
							平面位置	±20
							アンカーボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下

測定基準	測定箇所	摘要
<p>支承部アンカーボルトの箱抜き規格値の平面位置は沓座の中心ではなく、アンカーボルトの箱抜きの中心で測定。</p> <p>アンカーボルト孔の鉛直度は箱抜きを橋軸方向、橋軸直角方向で十字に切った2隅で計測。</p>	<p>平面位置</p> <p>平面図</p> <p>— : 実際 - - - : 設計</p>  <p>アンカーボルト孔の鉛直度</p> <p>断面図</p> <p>平面図</p> <p>— : 実際 - - - : 設計</p> 	

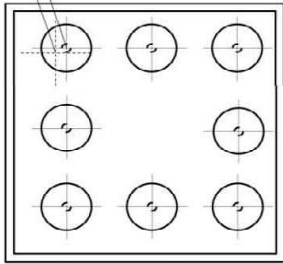
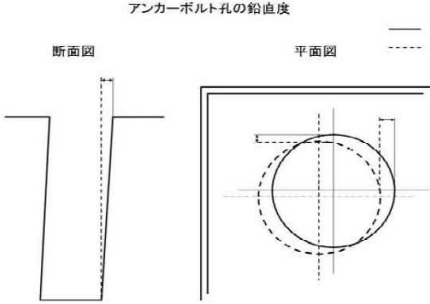
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
8 道 路 編	3 橋 梁 下 部	7 R C 橋 脚 工	9	2	橋脚躯体工 (ラーメン式)	基 準 高 ∇	±20
						厚 さ t	-20
						天 端 幅 w_1	-20
						敷 幅 w_2	-20
						高 さ h	-50
						長 さ l	-20
						橋脚中心間距離 l	±30
						支 間 長 及 び 中心線の変位	±50

測定基準	測定箇所	摘要
<p>橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。</p> <p>箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。</p> <p>なお、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる。（アンカーボルト孔の鉛直度を除く）</p> <p>ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」に基づき出来形管理を実施する場合は、同要領に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施することができる。</p>	<p>8-3-7-9</p>  <p>橋脚中心間距離 l</p> <p>支間長</p> <p>中心線の変位 (a 1 : 橋軸直角方向) (a 2 : 橋軸方向)</p>	

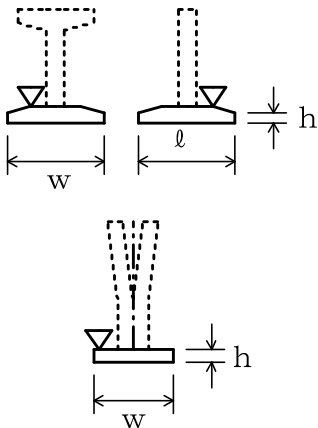
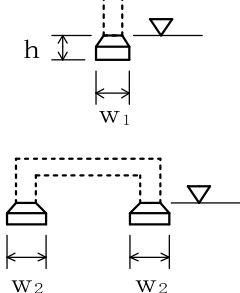
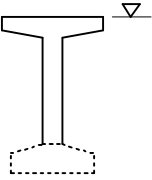
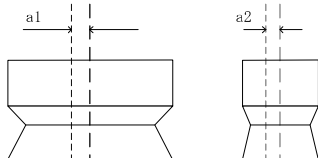
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
						支承部アンカーボルトの箱抜き規格値 アンカーボルト孔の鉛直度	計画高	+10~-20
							平面位置	±20
								1/50 以下

測定基準	測定箇所	摘要
<p>支承部アンカーボルトの箱抜き規格値の平面位置は杓座の中心ではなく、アンカーボルトの箱抜きの中心で測定。</p> <p>アンカーボルト孔の鉛直度は箱抜きを橋軸方向、橋軸直角方向で十字に切った2隅で計測。</p>	<p>平面位置</p> <p>平面図</p> <p>— : 実際 - - - : 設計</p>  <p>アンカーボルト孔の鉛直度</p> <p>断面図</p> <p>平面図</p> <p>— : 実際 - - - : 設計</p> 	

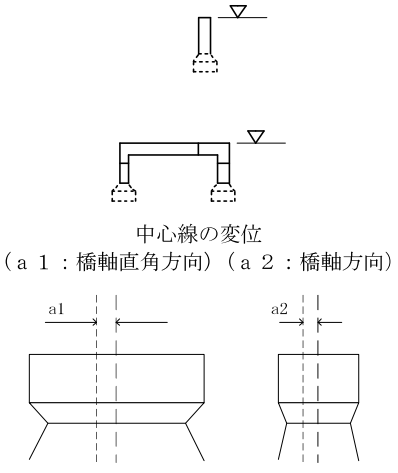
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
8 道 路 編	3 橋 梁 下 部	8 鋼 製 橋 脚 工	9	1	橋脚フーチング工 (I型・T型)	基 準 高 ∇	± 20
						幅 w (橋軸方向)	-50
						高 さ h	-50
						長 さ l	-50
8 道 路 編	3 橋 梁 下 部	8 鋼 製 橋 脚 工	9	2	橋脚フーチング工 (門型)	基 準 高 ∇	± 20
						幅 w_1, w_2	-50
						高 さ h	-50
8 道 路 編	3 橋 梁 下 部	8 鋼 製 橋 脚 工	10	1	橋脚架設工 (I型・T型)	基 準 高 ∇	± 20
						橋脚中心間距離 l	± 30
						支間長及び 中心線の変位	± 50

測定基準	測定箇所	摘要
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		8-3-8-9
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		8-3-8-9
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。	 <p data-bbox="829 1388 1053 1478">中心線の変位 (a 1 : 橋軸直角方向) (a 2 : 橋軸方向)</p> 	8-3-8-10

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
8 道 路 編	3 橋 梁 下 部	8 鋼 製 橋 脚 工	10	2	橋脚架設工 (門型)	基 準 高 ∇		±20
						橋脚中心間距離 l		±30
						支 間 長 及 び 中心線の変位		±50
8 道 路 編	3 橋 梁 下 部	8 鋼 製 橋 脚 工	11		現場継手工	現場継手部のすき間 δ_1, δ_2 (mm)		5 ※±5
8 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	9		橋梁用高欄製作工	部	部材長 l (m)	±3… $l \leq 10$ ±4… $l > 10$
						材		

測定基準	測定箇所	摘要
<p>橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。</p>	 <p>中心線の変位 (a 1 : 橋軸直角方向) (a 2 : 橋軸方向)</p>	8-3-8-10
<p>主桁、主構の全継手数の 1/2 を測定。 ※は耐候性鋼材（裸使用）の場合</p>		8-3-8-11
<p>図面の寸法表示箇所にて測定。</p>		8-4-3-9

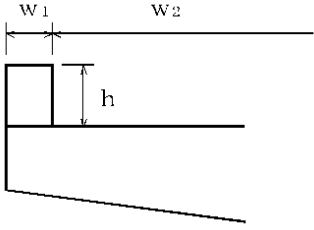
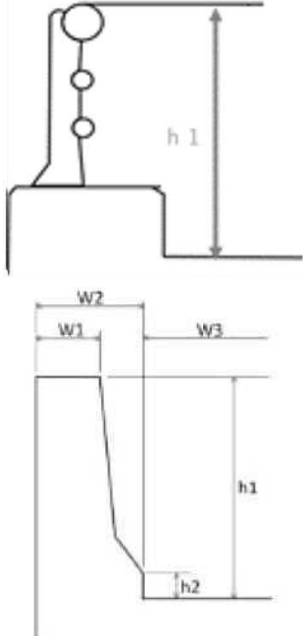
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
8 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	5 鋼 橋 架 設 工	10	1	支承工 (鋼製支承)	据付け高さ 注1)	±5	
						可動支承の移動 可能量 注2)	設計移動量以 上	
						支承中心間隔 (橋軸直角方向)	コンクリート 橋	鋼橋
							±5	± (4+0.5 ×(B- 2))
						水 平 度	橋軸方向	1 / 100
							橋軸直角方向	
						可動支承の橋軸方向のずれ 同一支承線上の相対誤差	5	
可動支承の 機能確認 注3)	温度変化に伴 う移動量計算 値の1/2以上							
8 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	5 鋼 橋 架 設 工	10	2	支承工 (ゴム支承)	据付け高さ 注1)	±5	
						可動支承の移動 可能量 注2)	設計移動量 以上	
						支承中心間隔 (橋軸直角方向)	コンクリート 橋	鋼橋
							±5	±(4+ 0.5× (B -2))
						水 平 度	橋軸方向	1 / 300
							橋軸直角方向	
						可動支承の橋軸方向のずれ 同一支承線上の相対誤差	5	
可動支承の 機能確認 注3)	温度変化に伴 う移動量計算 値の1/2以上							
8 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	3		落橋防止装置工	アンカーボルト孔の 削孔長	設計値以上	
						アンカーボルト 定着長	-20 以内 かつ-1D以内	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>支承全数を測定。 B：支承中心間隔（m）</p> <p>支承の平面寸法が 300mm 以下の場合 は、水平面の高低差を 1mm 以下とする。 なお、支承を勾配なりに据付ける場合 を除く。</p> <p>注 1) 先固定の場合は、支承上面で測定 する。 注 2) 可動支承の遊間（La, Lb）を計測 し、支承据付時のオフセット量 δ を考 慮して、移動可能量が道路橋支承便覧 の規格値を満たすことを確認する。 注 3) 可動支承の移動量検査は、架設完 了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。</p>		8-4-5-10
<p>支承全数を測定。 B：支承中心間隔（m）</p> <p>上部構造部材下面とゴム支承面との接 触面及びゴム支承と台座モルタルとの 接触面に肌すきが無いことを確認。 支承の平面寸法が 300mm 以下の場合 は、水平面の高低差を 1mm 以下とする。 なお、支承を勾配なりに据付ける場合 を除く。</p> <p>注 1) 先固定の場合は、支承上面で測定 する。 注 2) 可動支承の遊間（La, Lb）を計測 し、支承据付時のオフセット量 δ を考 慮して、移動可能量が道路橋支承便覧 の規格値を満たすことを確認する。 注 3) 可動支承の移動量検査は、架設完 了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。</p>		8-4-5-10
<p>全数測定</p>		8-4-8-3
<p>全数測定 D：アンカーボルト径（mm）</p>		

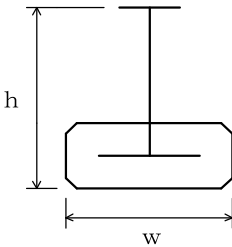
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
8 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	5		地覆工	地覆の幅 w_1	-10~+20
						地覆の高さ h	-10~+20
						有効幅員 w_2	0~+30
8 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	6 7		橋梁用防護柵工 橋梁用高欄工	天 端 幅 w_1	-5~+10
						地 覆 の 幅 w_2	-10~+20
						高 さ h_1	-20~+30
						高 さ h_2	-10~+20
						有 効 幅 員 w_3	0~+30
8 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	8		検査路工	幅	±3
						高 さ	±4

測定基準	測定箇所	摘要
1 径間当たり両端と中央部の3ヶ所測定。		8-4-8-5
1 径間当たり両端と中央部の3ヶ所測定。		8-4-8-6 8-4-8-7
1 ブロックを抽出して測定。		8-4-8-8

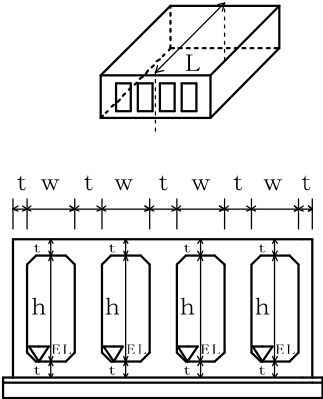
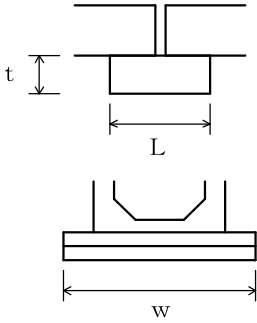
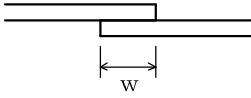
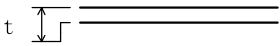
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
8 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	6 プ レ ビ ー ム 桁 橋 工	2		プレビーム桁製作工 (現場)	幅 w	± 5
						高 さ h	+10 - 5
						桁 長 ℓ スパン長	ℓ < 15… ±10 ℓ ≥ 15… ± (ℓ - 5) かつ -30mm 以内
						横方向最大タワミ	0.8 ℓ

測定基準	測定箇所	摘要
<p>桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3ヶ所とする。 l : スパン長</p>		8-5-6-2

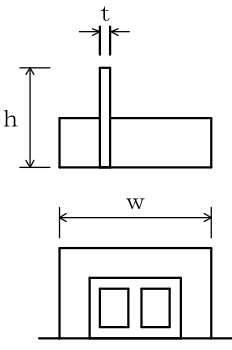
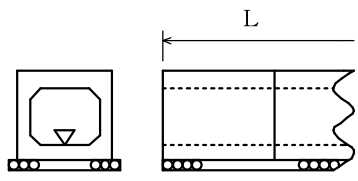
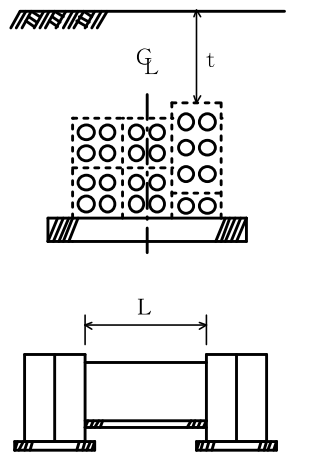
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
8 道 路 編	11 共 同 溝	6 現 場 打 構 築 工	2		現場打躯体工	基 準 高 ∇	±30
						厚 さ t	-20
						内 空 幅 w	-30
						内 空 高 h	±30
						ブ ロ ッ ク 長 L	-50
8 道 路 編	11 共 同 溝	6 現 場 打 構 築 工	4		カラー継手工	厚 さ t	-20
						幅 w	-20
						長 さ L	-20
8 道 路 編	11 共 同 溝	6 現 場 打 構 築 工	5	1	防水工 (防水)	幅 w	設計値以上
8 道 路 編	11 共 同 溝	6 現 場 打 構 築 工	5	2	防水工 (防水保護工)	厚 さ t	設計値以上

測定基準	測定箇所	摘要
両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所で測定。		8-11-6-2
図面の寸法表示箇所で測定。		8-11-6-4
両端・施工継手箇所の底版・側壁・頂版で測定。		8-11-6-5
両端・施工継手箇所の「四隅」で測定。		8-11-6-5

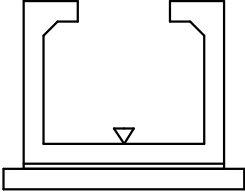
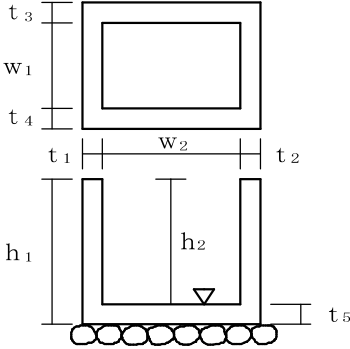
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
8 道 路 編	11 共 同 溝	6 現 場 打 構 築 工	5	3	防 水 工 (防 水 壁)	高 さ h	-20
						幅 w	±50
						厚 さ t	-20
8 道 路 編	11 共 同 溝	7 プ レ キ ャ ス ト 構 築 工	2		プ レ キ ャ ス ト 軀 体 工	基 準 高 ▽	±30
						延 長 L	-200
8 道 路 編	12 電 線 共 同 溝	5 電 線 共 同 溝 工	2		管 路 工 (管 路 部)	埋 設 深 t	0～+50
						延 長 L	-200

測定基準	測定箇所	摘要
図面の寸法表示箇所で測定。		8-11-6-5
<p>施工延長 40m（測点間隔 25m の場合は 50m）につき 1ヶ所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。ただし、基準高の適用は据付後の段階検査時のみ適用する。</p>		8-11-7-2
延長：1 施工箇所毎	<p>接続部（地上機器部）間毎に 1ヶ所。</p> <p>接続部（地上機器部）間毎で全数。 【管路センターで測定】</p>  <p>接続部（地上機器部） 接続部（地上機器部）</p>	8-12-5-2

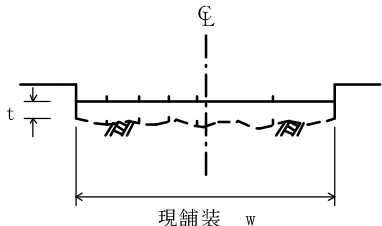
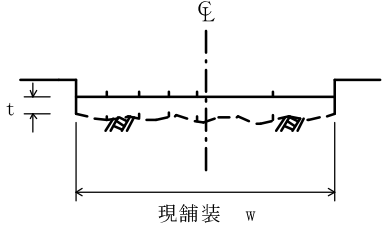
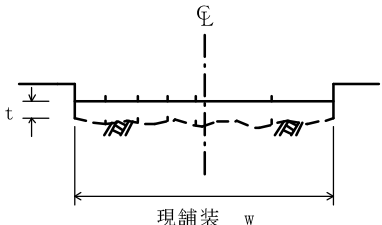
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
8 道 路 編	12 電 線 共 同 溝	5 電 線 共 同 溝 工	3		プレキャストボックス工 (特殊部)	基 準 高 ∇	± 30
8 道 路 編	12 電 線 共 同 溝	6 付 帯 設 備 工	2		ハンドホール工	基 準 高 ∇	± 30
						※厚 さ $t_1 \sim t_5$	-20
						※幅 w_1, w_2	-30
						※高 さ h_1, h_2	-30

測定基準	測定箇所	摘要
接続部（地上機器部）間毎に1ヶ所。		8-12-5-3
1ヶ所毎 ※は現場打部分のある場合		8-12-6-2

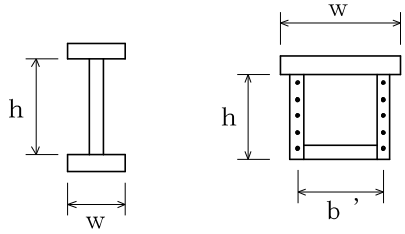
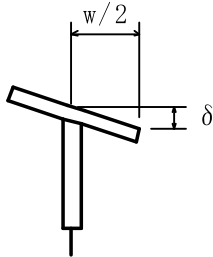
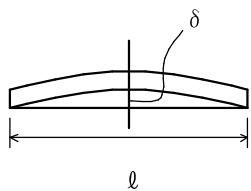
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	
							個々の測定値 (X)	測定値の平均 \bar{X}
8 道 路 編	14 道 路 維 持	4 舗 装 工	5	1	切削オーバーレイ工	厚さ t (切削)	-7	-2
						厚さ t (オーバーレイ)	-9	
						幅 w	-25	
						延長 L	-100	
						平坦性	—	3mプロファイル メーター (σ)2.4mm以下 直読式(足付き)(σ)1.75mm 以下
8 道 路 編	14 道 路 維 持	4 舗 装 工	5	2	切削オーバーレイ工 (面管理の場合) 厚さ t または 標高較 差 (切削) のみ	厚さ t (標高較差) (切削)	-17 (17) (面管理 とし て緩和)	-2 (2)
						厚さ t (オーバーレイ)	-9	
						幅 w	-25	
						延長 L	-100	
						平坦性	—	3mプロファイル メーター (σ)2.4mm以下 直読式(足付き)(σ)1.75mm 以下
8 道 路 編	14 道 路 維 持	4 舗 装 工	7		路上再生工	路盤工 厚さ t	-30	
						幅 w	-50	
						延長 L	-100	

測定基準	測定箇所	摘要
<p>厚さは 40m 毎に「現舗装高と切削後の基準高の差」「切削後の基準高とオーバーレイ後の基準高の差」で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。</p> <p>幅は、延長 40m 毎に 1ヶ所の割とし、延長 40m 未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。</p> <p>断面状況で、間隔、測点数を変えることができる。</p> <p>「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」の規定による測点の管理方法を用いることができる。</p> <p>平坦性は、施工延長 100m 以上の場合、</p>	 <p>施工延長 100m 以上で、1 車線 1 測定行うものとする。ただし、仮復旧は除く。</p>	8-14-4-5
<p>1. 3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）に基づき出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 計測は切削面の全面とし、すべての点で設計面との厚さ t または標高較差（切削）を算出する。計測密度は 1 点/m²（平面投影面積当たり）以上とする。</p> <p>3. 厚さ t または標高較差（切削）は、現舗装高と切削後の基準高との差で算出する。</p> <p>4. 厚さ（オーバーレイ）は 40m 毎に「切削後の基準高とオーバーレイ後の基準高の差」で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。</p> <p>5. 幅は、延長 40m 毎に 1ヶ所の割とし、延長 40m 未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。</p> <p>断面状況で、間隔、測点数を変えることができる。</p>	 <p>施工延長 100m 以上で、1 車線 1 測定行うものとする。ただし、仮復旧は除く。</p>	8-14-4-5
<p>幅は延長 40m 毎に 1ヶ所の割で測定。厚さは、各車線 100m 毎に左右両端及び中央の 3 点を掘り起こして測定。</p>		8-14-4-7

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
8 道 路 編	16 道 路 修 繕	3 工 場 製 作 工	4		桁補強材製作工	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m) 腹板間隔 b' (m)	± 2 …… w ≤ 0.5 ± 3 …… 0.5 < w ≤ 1.0 ± 4 …… 1.0 < w ≤ 2.0 ± (3 + w / 2) …… 2.0 < w
						フランジの直角度 δ (mm)	w / 200
						圧縮材の曲がり δ (mm)	ℓ / 1000

測定基準		測定箇所	摘要
鋼桁等	トラス・アーチ等		
主桁・主構	各支点及び各支間中央付近を測定。	 <p>I 型鋼桁 トラス弦材</p>	8-16-3-4
床組など	構造別に、5 部材につき 1 個抜き取った部材の中央付近を測定。		
主桁	各支点及び各支間中央付近を測定。		8-16-3-4
—	主要部材全数を測定。 ℓ : 部材長 (mm)		8-16-3-4